

## 『料理天国』に夢中になっていた小学生

初代昌信、二代昌次の時代を経て、経営のバトンは私に託されることになりました。専務を五年間経験した後、二〇一〇（平成二十二）十月、社長に就任しました。

私は一九六八（昭和四十三）年六月二十七日、昌次と初柯の長男として名古屋で生まれました。五年後に弟の英希が生まれます。すでに触れたように英希は現在、専務を務めていて、当社で扱うコーヒー豆の選定やブレンドなど、主に商品戦略全般に関わっています。

生まれてからずっと、当時本社を置いていた名古屋市東区七曲町に親子で住んでいました。幼稚園は近所の市立第一幼稚園です。

帰ってくると住まいの隣にあった焙煎工場に行って、コーヒー豆の入った麻袋の上を駆け回っていました。昌次の子どもの時代と同じことをしていたわけです。「歴史は繰り返す」。工場内に漂っていた、焙煎するときの深くて香ばしい香りは今でも鮮明に覚えています。

五歳のとき、現在の本社所在地である名古屋市中区大井町に移りましたが、小学校は東区の東桜小学校に越境通学しました。麻袋の上で一緒に遊んだ、仲の良かった幼なじみと離れるのが嫌だったからです。

最初の一年間は父親が送り迎えしてくれましたが、二年生になってからは名古屋市営